

第4回エコ整備フェア2013特集

15、16の2日間 大阪
南港ATCホールで

自動車整備技術の最新情報や業界動向を探るイベント「第4回エコ整備フェア2013」(主催)日刊自動車新聞社、フジサンケイビジネスアイ、共催)アジア太平洋トレードセンター)が15、16日の2日間、南港ATCホール(大阪市住之江区)で開かれる。

経営セミナーや
スキャンツール
実践講座も併催

ブース出展企業社数は43社・団体で、出展各社は整備機器や関連ビジネスなどを紹介する。恒例の整備・車体整備工場の今後の展望を示す「経営セミナー」や、一層高まるスキャンツール(外部故障診断機)の活用方法を学ぶ「スキャンツール実践講座」を併催する。来場促進策として、15日の開場時間を午後1時～午後8時に変更し、来場者数の底上げを図る。

4回目となる今回のテーマは、「地球環境と安全を推進しエコカー時代に飛躍するために」。ハイブリッド車(HV)や電気自動車(EV)に加え、開発が加速する燃料電池自動車(FCV)などの次世代車の本格的な普及に対応する整備技術や、整備業界の市場動向などを占う催しとして定着している。

14年問題などの
課題をテーマに

「経営セミナー」は15日に

最新技術や業界動向探る

実施する。08年の世界的金融危機(リーマンショック)、11年の東日本大震災による自動車の減産の影響で車検台数が減る「2014年問題」など整備業界が抱える課題がテーマとなる。さらに整備工場の労働環境や、女性客の来店を促す接客対応など取り組みべき課題は多い。整備事業者の将来的な経営ヒントを探る内容としている。

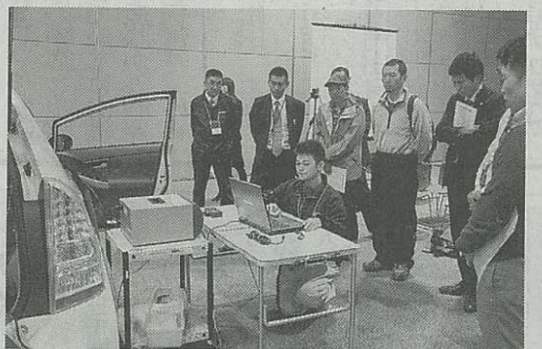
基調講演(無料)は、近畿運輸局の山崎孝章自動車技術安全部長が「これからの整備業に求められるもの」をテーマに行う。天理興業の藤室高明社長が「自動車整備業の未来像」、船井総合研究所の谷貴之取締役執行役員が「車検減少にどう対応するか。2014年問題を考える」、ミネルヴァ経営の上船美和代表が「女性客を狙え 草食系マーケティングで売りあげアップ」、日本塗料工業会の福山裕文大阪事務所副所長が「自動車補修用塗料の環境対応」をテーマとした講演を予定している。参加料は3千円。受講者全員に「整備戦略11月号」を進呈する。

次世代自動車の
本格普及に対応

16日は、車両診断と車体修復に分けたスキャンツールの実践講座を開く。HVやEVなどのエコカーをはじめとする多くの自動車では、安全性と環境性能の向上をめざし高度な電子制御による診断技術

が要求されている。これらの車の点検・整備にスキャンツールを利用した車載コンピュータの診断が欠かせない。そのほか、三菱ふそうトラック・バスの協力で「HVトラック整備のポイント」と題する講演を行う。

出展ブースでは、最大小間数のプロードリーフをはじめ、イケモト、SPK、ヤマト自動車など関西を代表する自動車関連企業が最新の整備機器などを紹介する。FCVなどの最新エコカーの展示も予定し、豊富な企画内容となっている。また、15日は午後5時



今年もスキャンツール実践講座を開く(写真は前回の様子)



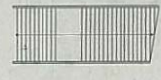
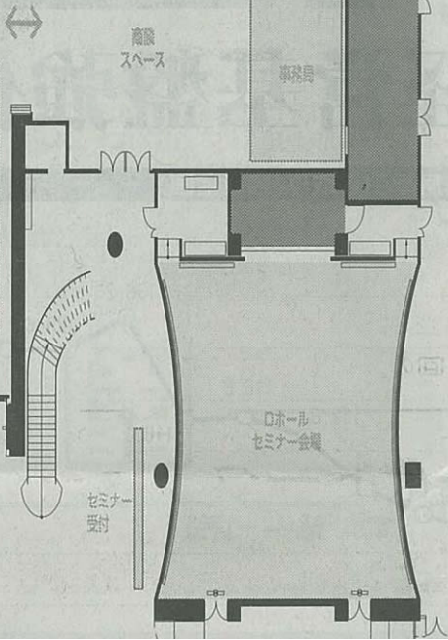
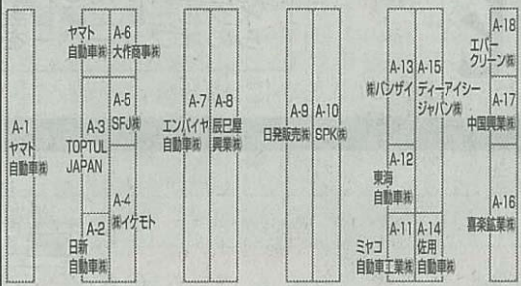
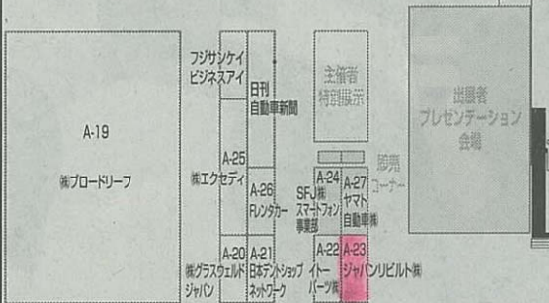
前回のエコ整備フェア

整備機器・関連ビジネス紹介

会場案内図

スキャンツール
実践講座

ハイブリッドトラック
整備のポイント



次世代電動車輛
(EV・FCV)
関連展示会

